

おれんじニュース

No282

2013年9月号



7月28日(日)白山に向かう。南竜山荘あたりでにわかにかがただよってきた。

写真提供 鎗水氏

今月号の記事	一切経の滝・高岩山／県連主催沢登／薬師岳～浄土山縦走／八天岳と飯盛山／白山／県連主催被爆遺構・碑めぐり・平和登山・平和行進
--------	---

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から				
	2013年9月	2013年10月	時間	場所
運営委員会	11日(水)	9日(水)	19:00～21:30	西諫早公民館
全体集会	25日(水)	23日(水)	19:00～21:30	西諫早公民館

2013/9月の山行



部	山行部	全体	ひまわり山行部	技術研修部
月・日	9月7日(土)	9月8日(日)	9月13日(金)	9月22日(日)
山名(行事)	一ノ峯・二ノ峯 (857.9m)(870m)	登山教室	涌蓋山(1499.5m)	鷹巣山(979.3m) 英彦山山系
地 図	大矢野原		湯坪	英彦山
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早公民館 1時～	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難易度	初心者・体力2	登山の装備 使い方 冬山、夏山、沢 命を守る装備 etc 質問形式で	初心者・体力2	健脚・初心コース有り
帰着時間	17:00		17:00	17:00
歩行時間	4.5h		4.0h	4.5h
交通手段	マイクロバス		マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り		日帰り	日帰り
温泉	有り		有り	有り
参加費	5000円		5000円	5000円
申込期限	定員なり次第	随時	定員なり次第	定員なり次第
集 約	田中	兵庫	林	佐原
備 考	秋の草花を見に行こう、マツムシソウ等	新人の方達へ向けての教室です。	小国富士とも呼ばれた山容の美しい山	少し早目の紅葉観賞です。岩場の紅葉が美しいかも!
感想文提出	9/17		9/23	10/2

労山新特別基金の案内

「日本勤労者山岳連盟」の「労山新特別基金」は10月が切り替えとなっています。

「労山新特別基金」は労山会員であれば、誰でもいつでも簡単に加入できます。労山の共済制度で営利を目的にしていません。加入者が増えれば給付額の倍率もあがります。海外登山、急病なども補償します。

個人1口 1000円(10口まで任意加入できます)

次回の会合で申込み受け付けます(9月11日、25日が会合予定です)。

2013/10 月の山行



部	ひまわり山行部	技術研修部	山行部
月・日	10月11日(金)	10月20日(日)	10月25日(金) ~27日(日)
山名(行事)	大平山(330.6m)	阿蘇 中岳と 俱利伽羅谷	祖母山(1756.4m) 尾平コース
地 図	佐賀県伊万里	阿蘇山・根子岳	祖母山・見立
集合場所	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 10:00
難 易 度	初心者	やや健脚	中級健脚
帰着時間	17:00	19:00	21:00
歩行時間	3.5h	4.0h	5h~7h
交通手段	マイカー	マイクロバス	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	1日目・山小屋(ホシコガ) 2日目・九合目山小屋
温 泉	有り	有り	有り
参加費	1000円	5000円	20000円
申込期限	定員なり次第	定員なり次第	定員なり次第
集 約	林	佐原	田中
備 考	秋の草花を見に行こう、マツムシソウ等	俱利伽羅谷の紅葉 wev で人気の穴場スポット	紅葉観賞登山です。ゆっくりと紅葉狩りしましょう。!
感想文提出	10/21	10/30	11/7

☆ 新しい仲間・・・☆ 間ノ瀬 浩彦さん 長崎市在住

8月に入会しました間ノ瀬です、
今まで 単独とか ツアーで登っていましたが何かと不便なところが
あり会に入ればいろんな山へ行けて楽しい山行ができると思い入会しました。オレンジHCの
ことは参加経験がありませんので全く知りません。

これから山行等いろんな事など教えていただければ幸いです。よろしく申し上げます。



ひまわり山行部より山行の日程変更のお知らせ

8月16日(金)に予定していた富川溪谷ですがお盆の後すぐという声が多く
8月30日(金)に変更いたします。内容その他は前と同じです。
ただし参加費はマイカーなので一人1000円です。まだ、参加できますよ。
暑い夏を溪谷で涼しく過ごしましょう。

7月19日(金)

一切経の滝 高岩山

(参加者) 小山、福岡、兵庫、中里、佐藤、山口、佐原、金丸、林(孝子)、下釜、川内、吉川、林田 (13名)
(行程) 西諫早駅 8:00—宝原園地 9:30—高岩山 10:10—高岩神社—宝原園地 11:20—昼食—12:20—小地獄駐車場 12:35—一切経の滝—小地獄温泉 13:30—入浴—14:20—西諫早着 15:45

(感想) 西諫早駅をマイカー2台で出発し、雲仙宝原園地に駐車。準備を整えて登山開始。歩き始めの道路脇はきれいに草刈してあり、その奥の登山道の階段も良く整備されて、以前より歩き易かった。

頂上あたりは巨石が多く、その先に高岩神社が祭られている。天気が良ければ島原半島南部や天草列島が見えるはずだが、あいにくガスで展望なし。記念撮影をした後来た道を下る。宝原園地の高台の東やで昼食をいただいた。



まわりの森からは小鳥のさえずりが賑やかだった。昼食の後車に乗り帰りに寄る小地獄温泉に駐車させてもらい一切経の滝へ行った。

ここは「新観光百選の地」に選ばれ近くにはお寺がありひんやりとして静かな気持ちの良い所だった。もどる途中「三鈷の松」といわれる葉が3

本にわかれた珍しい松の木が大事に保護されて大きくそびえていた。

最後は小地獄温泉でゆっくり汗を流し帰途についた。今日も良い山行ができました。

小山さん、中里さん運転していただきありがとうございました。

(林田 記・文中写真は佐藤氏提供)



7月20日(土)

長崎県連主催沢登り実技講習会に参加して

(参加者) 川原、鎗水、國分、田中、中里、松岡、山下、林(和) (オレンジ8名、県連全体で24名)

(感想) (副題)「家政婦(夫)は見た。」

随分前から、快晴、快晴、快晴、猛暑、猛暑の連続パンチ、そして7月20日当日もピーカンの夏空、でも沢の中は樹々のカーテンに優しく覆われて沢の溪流が天然のクーラーになって別世界でした。オレンジの川原さんが全体の指導者、カルチャーの濱崎さんが助手を務

められ他にも錚々たる指導者の方々に参加者も 24 名となかなかの盛会でした。

砂防堤で準備体操をして装備をチェック後いざスタート。

八丁谷を越えてウナギレ沢の手前で沢の淵に一頭の猪(成獣、性別不明)の死骸が横たわっていました。

丁度一週間前、佐賀労山の沢登りの時はまだ原型をとどめていたのですがもうすでに腐乱が進み白骨化までまもなくという状態でした。猪突猛進の後滑落して敢え無く短い一生を終えたのでしょうか……南無阿弥陀仏。

着実に自然へと回帰していく自然の森のサイクルは本当に正確なペースで機能しているんだなと実感させられました。

そしていよいよ沢に入ってゴーロ(巨岩帯)をボルダリングしながら上って行くのですが中には隙間が極端にせまくきびしい所もありオレンジの新人、林さん(彼女は入会してまだ 2 カ月目でなかなかアグレッシブです)が身動きとれなくなって自分はぼんやり見ていたのですが後から山下さんが間髪いれず「ほら、尻を持ち上げて！」と激を飛ばされ自分も胸まで水につかって「ヨッコラショ」と何とか押し上げました。滝の上部でロープを肩にかけてスックと立ってビレーするなんていうのは恰好いいけど「ザイルアップ！」じゃなくて「ヒップアップ！」つ～のは様にならないけど自分らしいと自嘲。

その後かなり難しい一番目の滝を全員登りきって昼食

をとり最後の長い滝にトライ、ここでは登りきった後エイト環を使って懸垂下降に挑戦しました。初体験の人もいたのですが指導の方々の適切な指示で全員無事怪我もなくスムーズに下りることが出来ました。

その後は登山道と黒木林道を通って 3 時 40

分頃公園横の駐車場に到着反省会の前にここで各自着替える事になり男性は車の後で手早くすませ、自分はズボンを車内に忘れていたので、中里さんが配車してくれた VOXY のドアを(一瞬「あー今はダメダメ」と静止の声があった様な気がするのですが)無造作に開けた所「なんばすつと！」ともの凄い剣幕の怒声が車内から響きわたり、ひるんで逃げようとした所、後ろから「やっぱりあんたやね、計画的じゃなかと！」と二の矢(アベノミクスの三本の矢よりはるかに迫力あります)が背中に突き刺さりました。

運がいいのか悪いのか？やっぱりいいとしときましよう。今後ことわざ辞典に「果報は寝て待て」とありますが「果報は開けて待て」も追加してもらいたいなと思いました。

今回の沢登りは学ぶべき事も多々ありなお且つ爽快感も充分満喫する事ができました。



まだまだ暑く永い夏が続くので沢登りの機会があったらできるだけ参加して少しでも技量をあげていきたいと思っております。(松岡 記・文中写真は北九州の田中氏提供)

7月21日～27日・・・個人山行

薬師岳～浄土山縦走・北アルプス立山連峰の南の山々

(行程) 7/21 福岡発

7/23 電鉄富山駅発 5:00－折立 7:00－太郎平小屋 11:35－薬師岳山荘着 14:25[泊]

7/24 薬師岳山荘発 6:00－薬師岳 7:00－スゴ乗越小屋 10:30[泊]

7/25 スゴ乗越小屋発 6:20－越中沢岳－五色ヶ原山荘着 13:25[泊]

7/26 五色ヶ原山荘発 5:55－獅子岳 7:45－浄土山 10:15－室堂平 11:05－室堂平バスセンター＝電鉄富山駅

7/27 帰福着

(感想) 出発するまで福岡は連日暑い日が続いていた。東北地方の梅雨明け発表はまだまだだった。富山駅に着いた時ショボショボの雨が降っていた。その日の未明にはどしゃ降りの雨が降ったり止んだりだった。バス出発の頃には小雨になったが山は期待できないと思いつつ今日だけの雨であってほしいと願いつつ折立に向かった。バスの乗客は10名だった。折立を出発する頃は止んでいた雨が又降り出して合羽を着て歩く。樹林帯の道は汗が拭いても拭いても滴ってくる。三角点を過ぎて太郎平まで雨の為に川と化した石道を歩く。

ほとんどがガスの中。その中でニッコウキスゲの黄色が揺れていた。

太郎平小屋に着いて又、ひとしきりの雨。小屋の軒先を借りて昼食を摂り薬師岳山荘へ向かう。山荘へはキャンプ場を過ぎてから急登となりその登山道がこれまた完全に沢の道と化していた。ガスの中、山荘の建物が見えた時は正直ホッとして嬉しかった。

夕方になりガスも時折薄く切れて黒部五郎岳に槍の穂



太郎平のニッコウキスゲ



薬師岳に向かう途中の雪溪

先がチラリと、それと薬師岳の東南稜の尾根が目の前に広がった。明日は期待できるかな、と思われたが翌朝6:00の出発からすでに雨の中だった。

薬師岳山頂には立派な祠があって薬師如来様が祀っている。

相変わらず雨とガスの中、北薬師岳への狭い尾根を下り気味に進む。



薬師岳山頂 ガスで何もみえず



薬師岳山荘の美人女将と

頼りは白ペンキの○印と矢印のみ。浮石や滑落に気を付けながら慎重に歩む。

時折覗き見れる黒部側の山肌は鋭く切れ落ちていて逆に晴れてなくて良かったと思わせられた。間山（まやま）を過ぎシラビソの樹林帯へと入って行くと道は降り続く雨の為にこれもまた川の状態で、だんだん靴がやばくなってきた。樹林の間に広がる景色がミニ雲の平を思わせられて楽しかった。それでもあきらめて川の道を進むと、いき

なりスゴ乗越小屋の前に出た。本日の行程ですれ違った人はペアの2人と途中で追い越された人が1人だけだった。小屋の宿泊者は8名。夕方からはガスも切れ、明日登る越中沢岳から烏帽子岳、赤牛岳、水晶岳、鷲羽岳まで眺められた。これなら明日は晴れると期待したのだが又しても夜中に数度のどしゃ降り。明日も雨中山行だと諦めて寝た。

山行三日目の朝は幸いにして雨は無くガスの中。本日は小屋からスゴ乗越までいきなり下りそれをスゴの頭まで倍以上かけて越中沢岳へと登り詰める。アップダウンがハンパない。

越中沢岳からもう一度越中沢乗越へと下り、再び鳶山に登り返すと、五色ヶ原が目の前に広がり赤い屋根の山荘もそこにあった。

ガスは晴れたと思ったら又襲って来るの繰り返しながら夕方には素晴らしい大パノラマを繰り広げてくれた。足元には池塘が点在し花々が咲き目を楽しませてくれた。

天気は快方かなと思わせられる夕方だったが又しても夜中にどしゃ降りの雨がきた。



目の前に現れた五色ヶ原山荘

しかし翌朝、山行中初めて朝日を拝めた。オレンジ色に染まった雲がきれいだった。針ノ木岳あたりからだった。

いよいよ最終日。やっと、まずまずのお天気だった。山荘からザラ峠へ下る。それを獅子岳目指して登り返す。これもまたハンパない。かなりの幅の雪渓を2度横切る。山荘の方々の

手で雪が切ってあった。やっと登り詰めると更に目の前に竜王岳が聳り立っていた。

竜王岳へ最後の登り。このあたりまで来るとすれ違う人も増えてきた。そして浄土山から最後の下り。室堂平へ。

雨とガスと風で合羽を脱ぐ事のなかった今回の山行だったけど「終りよければすべて良し」なのかな・・・。



薬師岳に向かう途中、一瞬ガスがきれた

(國分 記 ・文中写真も提供)

白山の花特集



アオノツガザクラ



イワカガミ



オオバミゾホウズキ



クロユリ



キヌガサソウ



ゴゼンタチバナ



イブキトラノオ



サンカヨウ



センジュガンピ



タマガワホトトギス



チングルマ



イワハゼ

白山花&スポット特集



ニッコウキスゲ



ノリウツギ



コバイケイソウ



ハクサンコザクラ



ハクサンフウロ



ベニバナイチゴ



マイズルソウ



ミヤマキンボウゲ



ヨツバシオガマ



花園の前にたつ山ガール山ボーイ

花の写真
下釜さん提供
スポット
鎗水さん提供



別当出合吊橋が下の方に見える

7月23日(火)

八天岳(296m)と飯盛山(294m)

(参加者) 林田、金丸、小山、川原、佐藤、下釜、川内、兵庫、福岡、山口、中里 (11名)

(行程) 9:00 西諫早駅自家用車出発～9:30 土師野尾登山口到着、準備体操等～
9:35 登山開始～9:35 岩の祠着、休憩 5 分～10:10 稲妻大蔵記念碑着、休憩 9 分～
10:23 頂上三角点到着、17 分休憩～10:40 分下山開始～八天狗鳥居到着～
11:30 休憩、10 分～11:50 スタート地点着、昼食～12:45 飯盛山登山口へ～
13:05 飯盛山登山口着、登山開始～13:45 飯盛山頂上～14:00 下山開始～
14:30 下山、解散式

(感想) 西諫早駅で自家用車に乗り合わせた 11 名は、土師野尾町の大鳥居を目指し、10 分で到着しました。下見の際に、駐車場に予定していたところには、何と大型の車が先着済みでしたので、止む無く登り口を二の鳥居を潜った先の、土俵をしつらえた公園下の広場にしました。

S さんの音頭で準備体操をした後、9 時 35 分には登り始めました。前々日に、S さん、Y さんの協力で登山道の発見と草刈りをしていたので、スムーズなスタートが切れました。

9 時 50 分には、大岩に仏を刻み注連縄を張って祀ってある場所につき、衣服調整と休憩を取りました。ここでは登山の安全を願い、用意していたお賽銭をささげる人もいるだろうと思い、下草も刈っていたのですが K 氏がカラス蛇を発見されたのには驚きました。

9 時 55 分に 5 分の小休憩を終えスタートし、10 時 10 分には江戸相撲で横綱を張った稲妻大蔵の記念碑があるところに到着し、休憩としました。この石碑の文字は彫が新しく、我々でも十分に判読できるほど鮮明でしたので、旧かな遣いの文章を読み進む人も何人かいました。



子宝に恵まれない地元の夫婦が八天岳にお百度参りをしていたところ子宝を授かり、その子が大蔵という名前で、小さい頃は八天狗と相撲をとっていたそうです。その子が長じて後の稲妻大蔵になったというわけです。それで、登山道の途中には鍛錬で大蔵が持ち上げていたという岩もありましたし、登山口に土俵も作ってあるんだと納得がいきました。

10 分ほど休憩して、三角点と大岩をおいて標識をのせてある頂上に向かい、4 分で到着しました。展望のきかないところだったので 10 時 40 分には下山を開始しました。

登った道とは違う道を探ってみようということで、急な坂や藪の道をくだり 11 時 17 分には八天狗鳥居に到着しホッとしました。ここには、諫江八十八か所の 61 番札所香園寺の表示があ

りました。ここから、途中 10 分ほどの休憩を挟んで歩き、11 時 50 分にはスタート地点に到着し昼食ということになりました。

ほどよい木陰で、蚊取り線香を焚きながら、流れてくる涼やかな風に身を委ねて、談笑しながら食べる昼食は至福のものとなりました。こういったのんびりとした山登りも良いものですねー。

昼食と談笑で、がぜん元気を取り戻した健脚のオレンジメンバーは、予定に入ってなかった飯盛山も制覇することを思い立ちました。まさか、山の形が御飯を持った形にそっくりだから、昼食を食べて思い出したわけではないのでしょうか…

12時45分に飯盛山登山口目指してスタートし、県営バス駐車場近くの空き地に車を停めたのは 13:05 分でした。さっそく登りはじめ、13 時 45 分には頂上に着きましたが、結構な急坂の連続で「里山あなどるなかれ！」と、僕は思いました。

さすが、山の形が飯盛りの形だけに、スタートしてすぐに急坂になり、ちょっとした広場のある頂上まで続くんですね。

頂上は展望がきかず、墓らしき石がたくさんあるものの、休憩用に腰を下ろすわけにもいかず、14 時には下山を開始し 14 時 30 分には現地で解散式をしました。

天気にも恵まれ、道に詳しいK氏の同道で、思いもかけずに二つの里山を経験できて大満足な一日となりました。草刈りをしてくださったSさんとYさん、そして二つの山でゴミ拾いをしてくださった参加者の皆さんありがとうございました。

(文責 ; ナカザト ; 文中写真も中里氏提供)



7月27日～30日

白 山

(参加者) 兵庫、福岡、鎗水、中須賀、佐原、林(孝)、林田、川内、田村、山口、中野、本田(や)、林(和)、岩永、金丸(直)、下釜、他(本田) (17名)

(行程) (7/27) 13:30 西諫早駅発—金立—16:00 新門司着—16:50 新門司発—

(7/28) 5:00 大阪南港着—5:45 下船,バス乗車—6:50 高速草津—10:00 福井北 IC—11:30 別当出合バス停(登山口)—昼食—12:00 登山開始—12:50 中飯場着—14:50 甚の助避難小屋—15:40 南竜山荘室堂分岐—16:35 南竜山荘着

(7/29) 4:30 起床—朝食—6:55 山小屋出発—7:10 エコーライン分岐—8:02 下山道と室堂分岐—8:20 室堂平センター—9:25△御前峰着—9:30 下山—9:50 室堂平—10:50 黒ぼこ岩—13:15 中飯場—13:55 吊り橋・別当出合—14:10 駐車場—14:40 白山温泉—永平寺山門—福井北 IC—18:30 菩提寺 SA—

(7/30) 6:20 西諫早着

(感想 1)・・・白山雑感

何年前かにテレビで、たしか日本酒のコマーシャルだったと思う(まだらボケになりつつあるので定かではない)が、「越中で立山、加賀では白山、駿河の富士山三国一だよ」というフレーズが流れていて、この文句が妙に気に入りに残っていた。

この富士山、白山、立山が日本三霊山と称されていることを知り、ますます興味がつのって来、ぜひ登りたいものだと思っていた。今回白山登山計画を任されて、ガイドブックやブログで白山について調べていると、前述のフレーズが「越中おわら節」の「長ばやし」の一つであることもインターネットで分かった。「越中おわら節」は「おわら風の盆」でよく知られているそうだが、これらに疎い私にはまた一つよい勉強になった。

南竜山荘から山頂を目指す日はあいにくの悪天候。計画を変更しここから下山する組と室堂まで行って判断する組とに、班の編制替えが行われる。ユックリ班のPLだったので下山組に入って役目を全うすべきだとも思ったが、福岡会長の「まだ自分は若い、また来る機会はあるので、下山組の面倒を見よう」との言葉に甘えさせてもらうことにする。

さすがは会長、会全体のことを考えた言動に頭の下がる思いである。

健脚者のペースに付いていけるのか、体力的にはチョット不安はあったが、この機会を逃せば後はないと意を決して室堂組の仲間に入れてもらう。健脚者6名と健脚くずれ？の私が室堂組となり、下山組より1時間早く7時に山荘を出発する。

花の名山としても知られる白山は、さすがに花の種類も量も豊富だ。エコーラインでも昨日の南竜道とは違った花が斜面一面に群生している。大きな雪渓を三つも見ながら室堂へ予定通り到着。天候の回復はないが、山頂まで行くことに衆議一決。

室堂にザックをデポし御前峰を目指す。他に登山者はいない。白山神社の神主さんが下駄で登るといわれる石畳を経て御前峰到着。山頂からの展望は無くお池巡りも出来ないが、どちらかといえば、花よりもピークハントが好みの私にとっては大満足。

Yリーダーや皆さんのおかげで念願の霊山白山登頂を果たすことが出来て、感謝感謝。

黒ボコ岩からの下りは登山道が水路のようになり、まるで沢下りだ。登山靴の中で足が泳いでいる。南竜道分岐までの山腹を巻く登山道は、四カ所ほど沢をわたるが、3~4m 巾で山側から滝のように水が流れ落ち谷側へと吸い込まれている。最初はロープが必要ではないかと思ったぐらいだ。水流に足を取られないよう慎重に且つ迅速に歩を運ぶ。

バランスを崩して倒れると、谷側へ落下して一卷の終わりになるかもと不安もよぎったが全員無事通過。今までにない経験をし心に残る山行になった。

富士山はオレンジ入会前に単独で登っており、残るは立山だけだ。山は逃げないと言うが加齢と共に遠くなる。出来るだけ早く達成したいものである。

(兵庫 記)



(感想 2)・・・様相を一変させた白山

登頂組：兵庫、中須賀、岩永、下釜、金丸、本田(チ)(一般参加)、鎗水

古より山岳信仰で有名な山、広大なお花畑や湿地帯、遠くにアルプスの峰々、整備された登山道。誰もが一度は登ってみたいと憧れる白山は、天気の良い休日ともなれば、親子連れなどで混雑する。しかし、名前は優しくとも高緯度で 2700m を超えると、そこはやはり山岳登山の領域であろう。

7/27 に諫早を出、28 日に大阪南港より北陸自動車道を走り、別当出合登山口(約 1300m)に到着。まずまずの天気、日曜日とあって登山者で混雑している中、12:00 に出発。砂防新道の中飯場、別当覗、甚之助避難小屋を目標に上って行く。避難小屋の手前で初の小さな雪渓が現れる。更に上り、黒ボコ岩と南竜ヶ馬場分岐から南竜道の方に行くと、斜面一帯は広大なお花畑。あまり植物に興味のない筆者でも思わず感激した。

万才谷の上方には雪渓の終端が見え、底には溪流が流れる。流れの先は、登山道の途中で見上げた滝になるのである。溪流に架かる橋を渡り、16:00 過ぎに南竜山荘(2040m)に到着。

7/29 激しい風雨について、7 人がまずは室堂を目指し 7:00 に出発。山の様相は昨日と一変している。

昨日渡った溪流は激流と化している。エコーラインを上り万才谷の上方に出ると雪渓が広がり、その下からは激しい水流の音が聞こえる。弥陀ヶ原の木道から右に室堂平を目指す。急登の岩場をまるで沢登のように上り、8:40 室堂センター(2448m)に到着。

気温 10℃、強風、大粒の雨が叩きつける中、ザックをセンターに置き急ぎ頂上を目指し 9:30 に白山奥宮(御前峰 2702m)に到着。

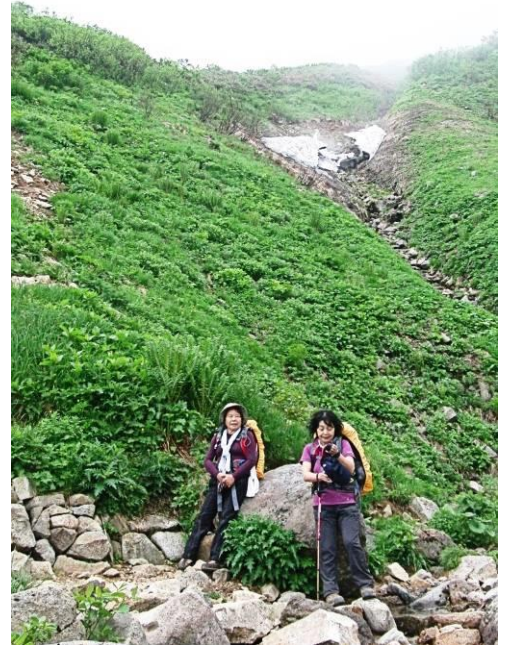
急ぎセンターに戻って熱いコーヒーを一服し、10:30 気を引き締めて下山にかかる。

登山道は殆ど川と化し、まるで沢下りをしている気分。

黒ボコ岩を過ぎると急傾斜となり、山肌には日頃はないであろうと思われる滝が幾筋も現れており、それが登山道を寸断して流れ落ちていく。我々はその滝の流れを横断しなければならぬ。濁っているため水面下の岩の状況が良くわからず、足で探りながら予想外の大滝を 4ヶ所渡った。川と化した登山道を延々と下り、見覚えのある避難小屋にたどり着き昼食を摂ったときはやれやれと言う思いであった。

更に、また川と化した登山道を延々と下り 14:00 に別当出合登山口の吊橋に到着した。予定より 2 時間早く下山できたが、吊橋の下はゴーゴーたる流れに、我々は濡ねずみになっていた。

アルプスの岩稜帯で嵐に会えば、更に厳しい状況になるであろう。 (鎗水 記・写真も)



(感想 3)

予定通り西諫早を出発 翌日 白山の登山口である、別当出合に昼チョッと前についた。そこから吊り橋を渡って、歩き始める。道はよく整備されて歩きやすい。木道も 何か所かあった。水場、トイレがある中飯場で中食。登る人下る人結構多い。花の季節で登山者が多いのだろうか？人気のある山なのだろう。どこから？と聞かれ 長崎から と答えると (ワー長崎 お気を付けて)(こちら福島 同じ被爆県ですね)とか こんにちは、が飛び交い 山ならではのいつもの風景。甚之助小屋に到着トイレ水分補給をする。今日の宿の南竜山荘に向けて歩く。あるくにつれてお花畑が広がり白山イチゲ 白山フウロ クルマユリ クロユリ 日光キスゲ ミヤマキンポウゲなどなど 皆 歓声を上げて写真撮りにパチリ、パチリ山の花は可憐でかわいい。南竜荘の周りには 雪渓があらこちら残り九州の山にはない山の景観だ。夕食後洗面をするが水の冷たいこと、冷たいこと手がしびれそうだ。その晩は、白山の山懐に抱かれてスヤスヤと夢路へ。翌朝は雨が降っている。昨晚食堂で明日は 大雨洪水注意報が出ているとか話していたのを 思いだした。



お花畑



健脚班は霧の立ち込める雨の中を 室堂へ出発。私たちゆっくり班も下山を始めた 昨日とは違って変ったの天気、山道は川になりそれも急流だ。時々横から滝のような水が流れ込み滑らないように気を付けて歩く。雨粒も大きい。靴の中にも水がじゃんじゃん流れ込む。無事に下山してバスに乗り込んだときは、ホツと安堵した。温泉に入ったときは生き返った気がした。気が緩んだのだろうか？ 貸切り状態の温泉は大きな声で話すのでやかましいこと。家に帰り白山あたりが ニュー

スになったと知った。山はやはりお天気がいい。

登り始めの別当出合の吊り橋はあらこちらからの流れ込みで濁流になり黒く渦巻いていた。思い出に残る 山行だった。 (林 孝子記)

県連主催 原爆遺構・碑巡り、平和登山、平和行進

(日時&参加者) 8/3 原爆遺構・碑巡り：高森、松岡

8/3 平和登山：中須賀、鎗水

8/4 平和行進：福岡、中里、下釜、中野、鎗水

(行程/平和登山) 9:40JR 浦上駅～9:55 一本柱鳥居～10:00 被爆くすのき(山王神社)～

10:15 旧長崎医科大学の正門門柱～10:25 経の峰墓地～10:35 穴弘法寺～

10:50 穴弘法奥之院霊泉寺～11:30 金比羅山砲台跡～11:40 金比羅神社～

11:45/12:30 ハタ揚げ広場(昼食)～12:50 金比羅山頂～14:30 浦上天主堂～14:50 爆心地公園

(感想)

8月は平和活動月間であるが、平和登山が代表して感想を記す。

爆心地近くの浦上、坂本、江平地区などには、市街地から山頂まで被爆遺構や慰霊碑がいたるところに存在する。

浦上駅をスタートして一本柱鳥居に向う。これは車道からでも見かけるが、近づいてみなければ刻まれた発起人名が原爆の熱線で溶けている事は分らない。また更に奥は目的を持って出かける限り、原爆遺構や慰霊碑に出会うことはない。

すぐに山王神社の被爆くすのきが見えてくる。門前の脇には「坂本町民原子爆弾殉難之碑」が立つ。旧長崎医大の花崗岩製で7トンの正門は爆風で移動しているとのこと。

経の峰墓地の墓碑には「昭和20年8月9日」と刻まれたものが多くある。

穴弘法寺は旧長崎医大の救護所に指定されていたため、医大関係者や多くの市民がやってきたものの多くは死亡した。更に上方奥にある穴弘法奥之院霊泉寺は清水が湧くところとして知られ、水を求めて登ってきた多くの市民が息絶えた。今は「原爆殉難者のための平和観音像」が立つ。近くの巨岩は爆風でずれ今にも落ちそうにしながら68年我慢している。



穴弘法寺

高射砲隊の慰霊碑



犠牲者の辿った炎天下の道を歩きながら、想像を絶する苦しみであったであろう事を、ほんのわずか理解できたような気がする。遺構は原爆の熱線や破壊力の大きさを物語り、慰霊碑は犠牲となった人々の無念さを今に伝える。

(鎗水 記)

ここより山中らしくなり、40分ほど木造の階段をゆっくり上り金比羅山砲台跡に着く。

高射砲隊も原爆の犠牲となり、昭和52年に「原爆戦死者之慰霊碑」が建立されている。

これより先、金比羅山、天狗山を越え金比羅配水槽まで気持ちの良い山歩きとなる。



金比羅山の鳥居

平和登山……8月は平和登山で始まる



一本柱鳥居



坂本町慰霊神社
山王神社の被爆くすのき



浦上天主堂

多良岳のオオキツネノカミソリ



間ノ瀬氏提供



金比羅山



野中氏提供



被爆天使像

おれんじニュースNo282	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2013.8.21
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://zd1307.s11.zdrv.com/wp_orange/

今月号は記事、写真ともに盛りだくさんです。快く文章を書いて下さる皆様に感謝申し上げます。又、貴重な写真を送ってくださりありがとうございました。まだ、暑い日々が続きますが身体に気を付けて山をたのしみましょう。山下